

# 編修趣意書

## 教育基本法との対照表

※申請図書番号	学校	教科	種目	学年
31-112	中学校	外国語	英語	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	英語 805	Here We Go! ENGLISH COURSE 2		

### 1. 編修の基本方針

## 「グローバル社会に必要な英語の力・心・意欲を育てる」

この教科書では、教育基本法、学校教育法の理念および学習指導要領の目標を実現するために、「言葉・文化・価値観の異なる多様な人々と気持ちや考えを伝え合い、主体的に課題に向き合い、協力して平和な世界を築こうとする開かれた心をもつ人を育てる」ことを目指し、3つの基本方針に基づいて編修しました。

### 1 英語を使う「力」が育つ。

—— 豊かな学びを通じて、「英語を使ってできること」を着実に増やしていきます。

小学校での学びを踏まえながら、「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」英語の力がバランスよく、また楽しく身につけられる教科書を目指しました。生徒に身近な中学生の主人公たちが活躍する本文だけでなく、社会生活の中で実際に使われる英語を素材にした教材を豊富に用意し、確かな学力に基づいた「英語を使う力」を育てます。



### 2 英語を使う「心」が育つ。

—— 世界の中で英語を使っていくための見方・考え方、資質と能力が育ちます。

英語の知識や技能にとどまらず、英語を使って世界中の人々とコミュニケーションを図り、よりよい世界を築いていく人になるための「心」が育つ教科書を目指しました。そのために、世界の様々な地域の題材をもとに教材を構成するだけでなく、円滑なコミュニケーションを身につけるための表現を豊富に紹介しています。



### 3 学びに向かう「意欲」が育つ。

—— 各学年にはそれぞれテーマを設け、学習や発達の段階に応じた指針を示しました。

#### 1年「やってみよう。」

間違いを恐れずに英語を使いながら、自分の世界を広げていきます。



#### 2年「見つけよう。」

世界の多様性を理解しながら、自分ができることを見つけていきます。



#### 3年「続けていこう。」

より広い世界に目を向け、英語を使う力と継続的に学ぶ資質を養います。



# 1

## 英語を使う「力」が育つ。

—— 豊かな学びを通じて、「英語を使ってできること」を着実に増やしていきます。

「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どう学ぶか」を意識し、主体的・対話的で深い学びのためのサイクルをつくります。

### 学びのステップ

#### 目標の確認

「何ができるか」  
「何を学ぶか」  
「どう学ぶか」を  
意識する

#### インプット

新しい知識と  
技能を豊かに  
インプットする

#### 活用

活動を通じて  
知識と技能を  
繰り返し活用する

#### アウトプット

主体的・対話的で  
深い学びを通じて  
思考・判断・表現の  
力をつける

#### ふり返り

学びをふり返り、  
次につなげる

### 具体的な内容

巻頭の Contents と本書の構成で、学年全体の目標と、教科書の各教材で何を学ぶかを確認します。Q & A 形式の英語の学びガイドで、学習の心構えと方法を確認することができます。また、各 Unit の最初にはより具体的な目標が示されています。

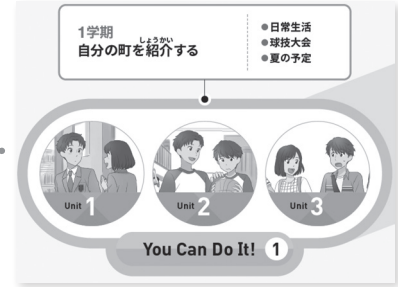
各 Unit の左ページには、学ぶべき文型・文構造等を含む本文を掲載しています。3年間で身につけたい発信語彙は太字で示しています。本文は4人の中学生が主人公のストーリーで、多様で身近な内容で学ぶことができ、豊かなインプットにつながります。

各 Unit の右ページには、学んだことを活用するための活動が設定されています。加えて、Let's Talk! などの帯教材、Daily Life, World Tour, Let's Read, Active Grammar などの小教材を使って、習得したことの活用や、学習の補強ができます。

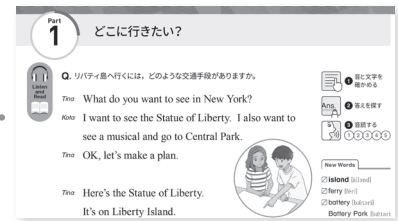
各 Unit の最後の Goal と、各学年3か所設定されている You Can Do It! では、学んできた知識や技能を使いながら、複数の領域を横断した活動に取り組みます。グループでの協同学習による活動も設定されており、思考力・判断力・表現力を養いながら主体的・対話的で深い学びを促します。

各 Unit 最後のふり返りのコーナーで、「何ができるようになったか」をモニターすることができます。また、巻末には4技能5領域別に整理された CAN-DO List が掲載されており、折に触れて目標の到達度をチェックし、次の学びにつなげることができます。

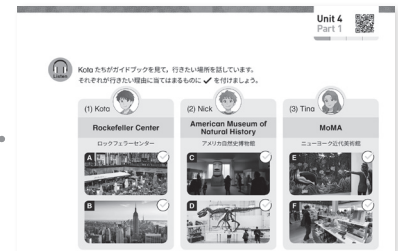
### 紙面の例



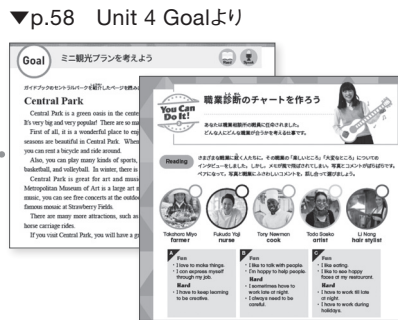
▲pp.4-5 本書の構成より



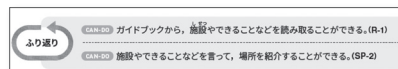
▲p.52 Unit 4 Part 1 本文より



▲p.53 Unit 4 Part 1 Listenより



pp.92-93 You Can Do It! 2より▲



▲p.59 Unit 4 Goalより



▲pp.174-175 CAN-DO Listより

## 2

### 英語を使う「心」が育つ。

—— 世界の中で英語を使っていくための見方・考え方、資質と能力が育ちます。

#### ①さまざまな背景を持つ中学生たちが成長していくストーリーを設定。

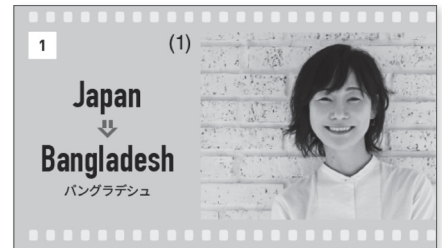
各 Unit の本文には、4人の中学生たちが出会い、さまざまな出来事を経験しながら考え、成長していくストーリーを設定しました。英語のストーリーを通じて、世界の多様性に目を向けながら自分も他者も尊重することの大切さを実感することができます。



▲左からTina, Eri, Kota, Hajin

#### ②世界で実際に活躍する人や、多様な文化を紹介。

World Tour のコーナーでは、世界で実際に活躍する人などに触れられる教材を用意して、多様な文化や価値観に触れられるようにしました。英語を使ってコミュニケーションをすることの楽しさや意味を実感し、外国語学習のための見方・考え方を養いながら、生徒の学習意欲を高めます。



▲pp.90-91 World Tour 2  
世界を舞台に働く人

#### ③グループで力を合わせて考える、協同学習を用意。

各 Unit の Goal や、年3回用意されている You Can Do It! では、グループ内でやりとりをしたり、協力しながら発表をしたりする活動が用意されています。また、異文化理解を促す World Tour には話し合う活動を設け、多様な意見を交換できるようにしました。



▲pp.126-127 You Can Do It! 3

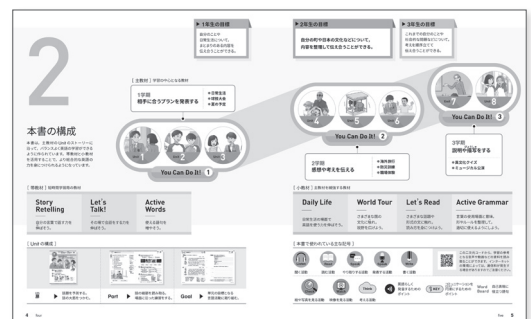
## 3

### 学びに向かう「意欲」が育つ。

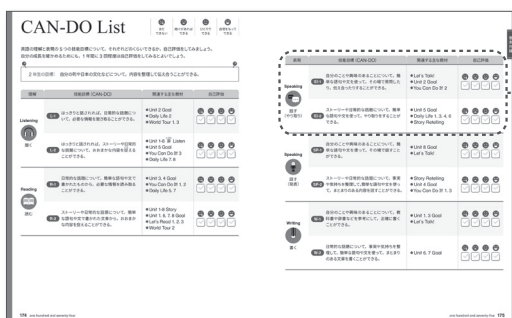
—— 学びたい気持ちを引き出し、次の学びにつなげます。

#### 巻頭に「学習を見渡すページ」、巻末には「CAN-DO List」を用意。

巻頭には、各 Unit の文型事項を一覧できる Contents, 教科書全体の構成と目標がわかる本書の構成を掲載し、各教材の役割や目標がわかるようにしました。また巻末には CAN-DO List を掲載し、4技能5領域に対応した「英語を使ってできるようになること」をチェックしながら学習を進めることができます。



▲pp.4-5 本書の構成

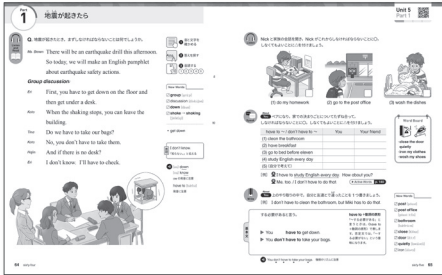




▲pp.174-175  
CAN-DO List

表現	技能目標 (CAN-DO)	関連する主な教材	自己評価
Speaking 話す (やり取り)	SI-1 自分のことや興味のあることについて、簡単な語句や文を使って、その場で質問したり、伝え合ったりすることができる。	● Let's Talk! ● Unit 2 Goal ● You Can Do It! 2	☺ ☹ ☹ ☹ ☹
	SI-2 ストーリーや日常的な話題について、簡単な語句や文を使って、やり取りをすることができます。	● Unit 5 Goal ● Daily Life 1, 3, 4, 6 ● Story Retelling	☹ ☹ ☹ ☹ ☹

## 2. 対照表

[ 第 2 学 年 ]

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所例
<p>全学年</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習者の言語能力と精神の発達段階に応じて幅広い知識と教養を身に付けることができるよう、また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう、外国人を含む4人の中学生の登場人物を中心に、主に自分のこと→身の回りのこと→社会や世界のことへと徐々に関心を広げながら学習を進めることができるようにしました。【第1号】【第5号】</li> <li>2. 実社会で使われている素材に豊富に触れることで、生活の中で実際に使える知識と教養を身に付けられるようにしました。【第1号】</li> <li>3. 個人の価値を尊重しつつ創造性を養い、将来の職業生活についても意識することができるようにしました。【第2号】</li> <li>4. グループでの活動を通じて、自他の敬愛と協力の精神の大切さに気付くとともに、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。【第3号】</li> <li>5. 生命や自然環境の大切さに気付くとともに、主体的に何ができるかを考えることができる教材を用意しました。【第4号】</li> <li>6. 我が国の伝統文化や郷土を愛するとともに、他国に向けてそれらのよさを発信できる力を養う教材を用意しました。【第5号】</li> <li>7. 世界の多様な文化とそこに生きる人々についての知識を深め、多様性を尊重する態度を養い、よりよい社会の形成に主体的に参画する意識を養うための教材を各学年に複数用意しました。【第3号】【第5号】</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学年Unit本文, 言語活動およびGoal, You Can Do It!              ▲pp.64-65 Unit 4</li> <li>2. 全学年Daily Life              ▲pp.104-105 Daily Life 7 観光案内</li> <li>3. 全学年Unit - Goal, You Can Do It!</li> <li>4. 全学年Unit - Goal, You Can Do It!</li> <li>5. 全学年Unit - Goal, You Can Do It!</li> <li>6. 全学年Unit - Goal, You Can Do It!</li> <li>7. 全学年World Tour</li> </ol>
<p>2年生</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を尊ぶとともに、協力を重んずる態度を養うために、「協同しながら地震対策を考え、英語の防災マニュアルを作成する」ことを話題にして本文を構成しました。【第3号】【第4号】</li> <li>2. 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うために、職業体験の内容で本文を構成し、将来を考える活動を設定しました。【第2号】</li> <li>3. 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養うために、「わが町観光プラン」および「観光案内」の活動、さらに葛飾北斎の作品を紹介する活動を設定しました。【第5号】</li> <li>4. 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、「中学生がニューヨークを訪問する」内容で本文を構成しました。【第5号】</li> <li>5. 幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うために、「日本発祥の絵文字とその使い方の注意点」を題材にした読み物を掲載しました。【第1号】</li> <li>6. 豊かな情操や自主・自律の精神を養うために、東日本大震災での被災を乗り越えた末に金メダルを獲得した羽生結弦選手を題材にした読み物を掲載しました。【第1号】【第2号】【第4号】</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit 5 (pp.63-71)</li> <li>2. Unit 6 (pp.75-83), You Can Do It! 2 (pp.92-93)</li> <li>3. You Can Do It! 1 (pp.48-49), Daily Life 7 (pp.104-105), Daily Life 8 (p.117)</li> <li>4. Unit 4 (pp.51-59), Let's Read More 1 (p.143)</li> <li>5. Let's Read 3 (pp.120-123)</li> <li>6. Let's Read 2 (pp.86-89) ▼  </li> </ol>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 現代的な諸課題に関する教科横断的な教育内容

##### [ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ]

- 各 Unit の本文の最後には、ストーリーの内容を踏まえて自分ならどうするかなどを考える「Think」の設問を置いています。自分で考え、生徒同士や先生と生徒が対話をしながらさらに考えを深め、議論できるようにしています。
- 各 Unit の最後と **You Can Do It!** には、「ふり返り」のコーナーを用意し、学習を CAN-DO の観点に加え、主体的・対話的で深い学びの観点からもふり返ることができるようにしました。
- 各学年に複数掲載している **World Tour** のページでは、音声や写真で世界中の人々や文化等に関する情報に触れ、自分で考え、生徒同士や先生と生徒が対話をしながらさらに考えを深め、議論できるようにしています。
- 主体的かつ継続的に学ぶ姿勢を持った自律的学習者の育成に資するために、各学年に英語の学習の仕方を紹介する **Your Coach** のコーナーを設けました。

##### [ カリキュラム・マネジメントの推進に向けて ]

- 教科横断的な観点から、**World Tour** や **Sing a Song** などのページで、社会科や音楽などの教科との関連を図れるようにしました。
- 職業体験、環境問題、防災・安全、我が国や郷土の伝統文化、修学旅行などを題材として取り上げ、学校の教育活動や目標との連携を図れるようにしました。

##### [ 言語材料の配列・選定について ]

- 小学校で学習した表現や文型・文法事項を中学校の早期段階で再び扱うようにすることで、基本的な表現を確実に定着できるようにしました。
- 小学校で学習する語彙も含め、英検や CEFR-J、国際的な基準等を参考に使用すべき語彙を分析し、2年生の教科書で学習する語彙を 544 語に設定しました。
- 特に重要な語彙は新出語欄に太字で示し、発信語の目安になるようにしました（2年生では 235 語）。
- 教科書の全編を通じて、既習の表現や語彙にくり返し出会うことでスパイラル的に学習し、定着を図れるようにしました。

##### [ 小・中・高の接続について ]

- 小学校からの接続を円滑にするために、1年生の冒頭に置いた **Let's Be Friends!** では、小学校で学習した英語の基本表現を復習できるようにし、大きな負担を感じずに短時間で効率よく学習ができるようにしました。
- 3年生では **Your Coach 4 英語のトレーニングを続けていこう** のページを設け、長期的な目標を持ちながら中学校の学習を終えた後も継続的に英語の学習に取り組んでいくことを促すようにしました。

##### [ ICT の活用・英語の音声等の提供について ]

- 音声や映像、リンク集など、学習を広げるウェブコンテンツを豊富に用意し、紙面に付した二次元コードを通して無償で利用できるようにしました。

#### 全ての生徒にとって使いやすく、学びやすく

##### [ 特別支援教育への配慮 ]

教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から、全ページにわたって専門家による校閲を受け、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

##### [ 学習上の配慮 ]

- 文字については、特に入門期においては生徒が学習しやすい4線の幅に対応した、新しいアルファベットのフォントを独自に開発して使用しました。
- 日本語の表記は、視認しやすく学習しやすいユニバーサルデザインの書体を使用、文字の大きさは、発達段階、教材の内容に十分に配慮しました。
- 中学校の配当漢字には、全て振り仮名を付しました。
- 判型については、横組の文字が読みやすく、紙面を視覚的に見せることができる横幅の広いAB判を採用しました。
- 本文用紙は、軽くて裏写りにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙を用いました。環境に配慮した用紙です。
- レイアウトについては、迷わず学習ができるように、同様の情報を所定の位置に整理して配置しました。
- 大判のイラストや、小さくしても分かりやすい写真を用いて、めりはりのある紙面構成にしました。

##### [ 人権上の配慮 ]

教材や挿絵に登場する人物に性別による偏りがなく、また、人種・身体的特徴などについても、多様性に意を用いました。

# 編修趣意書

## 学習指導要領との対照表， 配当授業時数

※申請図書番号	学校	教科	種目	学年
31-112	中学校	外国語	英語	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	英語 805	Here We Go! ENGLISH COURSE 2		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 1 2年生の英語学習のスタートを，楽しく，わかりやすく。

— 学年のはじめに全体を見渡し，安心して楽しく中学校の英語に取り組みます。

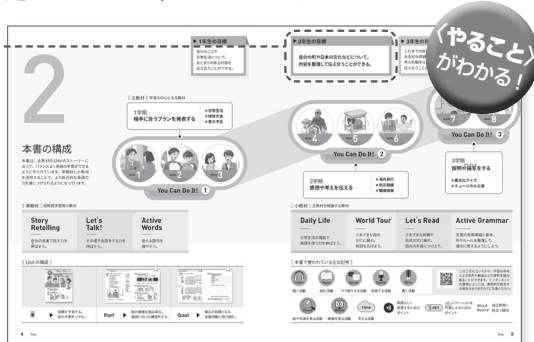
①はじめに「できるようになること」「やること」と「やり方」がわかり，スムーズに学習が始められます。

#### [ 巻頭の構成 ]

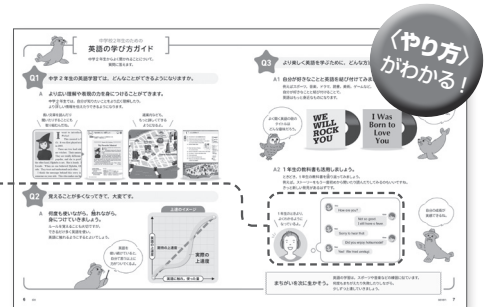
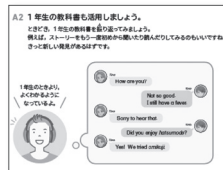
前見返しで「できること」の例をビジュアルで示し，全 Unit の Goal を示す Contents (目次) と各学年と3年間の目標をステップとともに示す本書の構成で「やること」が，英語の学び方ガイドで「やり方」がわかるようになっており，見通しをもちながら，意欲を高めて学習を進められるようにしました。



▲前見返し



▲pp.4-5 本書の構成



▲pp.6-7

中学校2年生のための 英語の学び方ガイド

② Unit の Goal を確認しながら，見通しをもって学習が進められます。

#### [ Unit や教材の CAN-DO を明示 ]

各 Unit や You Can Do It!, Daily Life などの教材には，冒頭に技能別の Goal を明示し，目標を確認しながら学習を進めることができるようにしました。これらの Goal は巻末に掲載された CAN-DO List と連動しており，学年全体を通して「できること」の見通しを持てるようにしました。



▲p.75 Unit 6 扉ページに明示されたGoal

③ 1年生の教科書から、スムーズに2年生のUnitの学びにつなげます。

[ 巻頭教材 Play Back the Story ]

1年生のUnit本文ストーリーの内容を、巻頭教材のPlay Back the Storyで振り返ります。リスニング活動で発話の主要な場面をたどりながら、2年生のUnitに入る前に1年生で学習したことの復習もできるようにしました。



p.8 Play Back the Story▶

## 2 学年の目標を達成するための主教材

—— 着実に「できるようになること」がわかる主教材 UnitとYou Can Do It!

① Unit本文で、基本事項の定着と総合的な英語力の育成を図ります。

①音と文字を確かめる  
②答えを探す  
③音読する

の流れで、本文の学習のステップを示しています。

▲pp.78-79 Unit 6  
Work Experience Part 2

[ 本文ストーリー (左ページ) ]

4人の中学生たちが、自分のこと、身近なことから社会的・文化的なことまで、3年間の中でさまざまなことや人々と出会いながら成長していきます。バラエティに富んだ題材や文種に触れ、キャラクターたちとともに人間的にも成長していきながら、文法・文型や語彙などの基本知識の定着を図り、また4技能5領域の英語の技能を総合的に高めます。

[ 本文リテリング活動のための帯教材 ]

Unitの本文ストーリーの内容を自分の英語で伝える「リテリング活動」の教材を、Story Retellingのコーナーとして教科書の後ろにまとめて掲載。毎回の授業の帯学習に活用することができます。ストーリーの発話の場面を再現しやすくするために、Unitの挿絵以外の図版も多数用意しました。

[ 言語活動と基本文 (右ページ) ]

本文の内容と関連付けながら活用し、活動を通じて知識と技能を定着させていきます。「聞く」活動からはじまり、「話す」活動を経て、最後に「書く」ことにつなげます。

また、本文で扱った基本文を簡潔な解説とともに示し、理解を助けるようにしました。

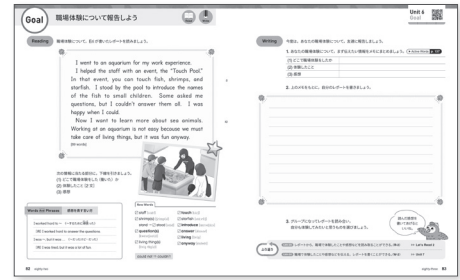


p.133 Story Retelling Unit 6▶

② Unit の Goal で「できること」を着実に増やしていきます。

[ 複数の技能を使って自己表現活動へ ]

Unit の本文で学んだ内容と言語材料に関連付けながら、「聞く」「読む」活動から「話す [やり取り・発表]」や「書く」自己表現活動まで行います。最後に、CAN-DO List とリンクした各 Unit の到達目標の達成度をふり返ります。

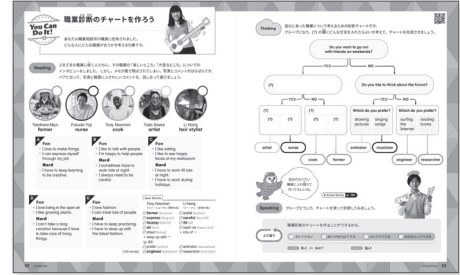


▲pp.82-83 Unit 6 Goal

③ You Can Do It! で思考力・判断力・表現力を養います。

[ 主体的・対話的で深い学びを実践 ]

年3回設定されたプロジェクト型の言語活動 You Can Do It! では、複数の技能を使ったグループでの協同学習を通じて思考力・判断力・表現力を養いながら「できること」のより一層の定着を図ります。CAN-DO List ともリンクしているので、学習のふり返りのよい機会にもなります。



▲pp.92-93 You Can Do It! 2  
職業診断チャートを作ろう

## 3 日々の英語学習をサポートする帯教材

— Unit の学習を補強し、活用を増やします。

① 即興的なやりとりをトレーニングする Let's Talk! (とじ込み)

[ 毎回の授業で使える、即興スピーキングドリル ]

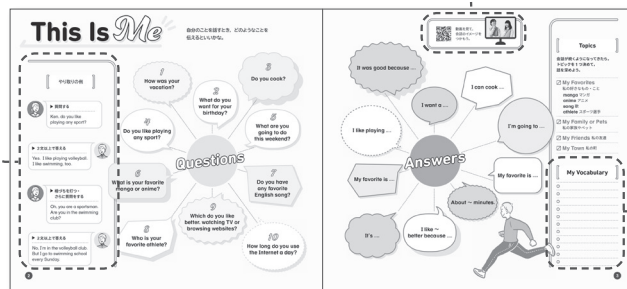
映像も用意されているやり取りの例を参考にしながら、3学年を通して「私ってこんな人 (This Is Me)」「私の日常 (My Life)」「私のしたいこと (My Future)」の3つの大テーマから、毎回異なるトピックを選んで会話の練習ができます。

サイズと紙質が異なる用紙に印刷されており、すぐに該当ページを開くことができます。



映像も用意されているやり取りの例を参考にしながら、様々なトピックで即興的なスピーキングをします。

すぐ前には会話のコツや相づち表現などを紹介するページがあり、常に参照することができます。



My Vocabulary の欄には、自分がよく使う語彙をメモしておくことができます。

すぐ後には Active Words のページが掲載されており、必要な語彙や表現をすぐに見つけることができます (②参照)。

② 発信と受容のための語彙力をつける Active Words

[ 様々な言語活動と連動したカテゴリ別の語彙のページ ]

Let's Talk! のほか、Unit, You Can Do It!, Story Retelling, Daily Life など、教科書の様々な言語活動と連動して活用できる語彙を紹介しています。

特に関連した言語活動にはリンクするページを示し、スムーズに使えるようにしています。





# 4

## 英語の知識を活用し、技能を伸ばす小教材

—— 知識と技能を、生きて働く力にしていきます。

### [ 日常生活に直結した場面の英語を使う Daily Life ]

学んだことを実生活で生きて働く力にするための教材を豊富に用意しました。



▲p.72 Daily Life 5 イベントのお知らせ

### [ 世界の生の情報に触れる World Tour ]

異文化や世界の多様性を知り、知的好奇心を満たしながら思考力を養うための教材です。



▲pp.124-125 World Tour 3 世界遺産めぐり

### [ 着実に「読み方」を身につける Let's Read ]

学習の習熟段階に応じて「読み方」を身に付けるための教材を用意しました。



▲pp.120-123 Let's Read 3 Emojis—From Japan to the World

### [ 英語のルールをしっかり確認できる Active Grammar ]

Unit 本文と連携した発話場面を活用し、自分たちで考えながら文型や文構造のルールやしくみを整理できるようにしました。



▲p.85 Active Grammar 7

# 5

## 学びを広げ、もっと豊かに。

—— もっと知りたい、学びたい。様々な「もっと」に応えられるコンテンツを豊富に用意しました。

### [ 付録教材 ]

#### ● 英語の学び方ガイド, Your Coach

巻頭の英語の学び方ガイドでは各学年の学習方法の指針を示し、各学年に複数掲載した Your Coach では、各技能別の学び方のコツなどを紹介し、自律的学習者の育成に資するよう配慮しています。

#### ● Sing a Song

英語の歌の選定にあたっては、メッセージ性や季節感、学習した言語材料に触れられるなどの配慮をしました。

#### ● Let's Read More

バラエティ豊かな題材を選定するとともに、語注を豊富に加えて「読む」ことに集中できるように配慮しました。

#### ● 巻末資料

Unit や学年を横断して知識を整理した英語のしくみのほか、基本本文のまとめ、CAN-DO Listなどを掲載しています。

### [ 二次元コード ]

音声や映像、リンク集など、学習を広げるウェブコンテンツを豊富に用意し、紙面に付した二次元コードを通して無償で利用できるようにしました。



## 2. 対照表

[ 第 2 学年 ]

言語活動 L: 聞く R: 読む SI: 話す[やり取り] SP: 話す[発表] W: 書く 網掛けは主たる言語活動

2 年	図書の構成・内容	主な言語材料	学習指導要領の内容					言語の働き		該当頁	時数
			言語活動					場面	働き		
			L	R	SI	SP	W				
<b>Unit 1</b> Hajin's Diary	動詞の過去形 (復習) 過去進行形 接続詞 when	ア ア, イ	ア, イ	ア		ア, ウ	ア	ウ, オ	9-17	9	
<b>Unit 2</b> Basketball Tournament	動名詞 不定詞 (名詞的用法) 接続詞 that	ア	ア	ア		ア	ア	イ, ウ オ	19-27	9	
<b>Unit 3</b> Plans for the Summer	be going to ~ 助動詞 will 接続詞 if	ア, イ	ア, イ	ア		ア, イ	ア, イ	ア, イ ウ, エ オ	31-39	9	
<b>You Can Do It! 1</b>	わが町観光プランをおすすめしよう		イ		イ		イ	ウ, エ	48-49	2	
<b>Unit 4</b> Tour in New York City	There is / are ~. SVOC 不定詞 (形容詞的用法)	ア	ア, イ	ア	イ	ア	イ	ア, イ ウ, エ オ	51-59	9	
<b>Unit 5</b> Earthquake Drill	have to / don't have to must / must not should / shouldn't	ア, イ	ア, イ	イ	ア, イ	ア	ア, イ	ア, ウ エ, オ	63-71	9	
<b>Unit 6</b> Work Experience	不定詞 (副詞的用法・目的) 接続詞 because 不定詞 (副詞的用法・理由)	ア	ア, ウ	ア		ア	ア	ア, ウ エ, オ	75-83	9	
<b>You Can Do It! 2</b>	職業診断のチャートを作ろう		イ	ア		ア	ア	エ, オ	92-93	2	
<b>Unit 7</b> Amazing Australia	比較級と最上級 (-er / -est) 比較級と最上級 (more / most) as ~ as ...	ア	ア, イ	ア		ア	ア	ア, ウ エ, オ	95-103	9	
<b>Unit 8</b> Staging a Musical	受け身の文 SVOC want + 人 + 不定詞	ア	ア, ウ	ア	ア, イ	ア	ア	ア, イ ウ, エ オ	107-115	9	
<b>You Can Do It! 3</b>	日本のおもしろいものを紹介しよう	イ			イ			ウ	126-127	2	
<b>Daily Life</b>											
1 電話	May I speak to ~?			ア			イ	ア, オ	29	1	
2 アナウンス		イ						ウ	41	1	
3 レストラン	Shall I ~? / Will you ~?			ア			イ	エ, オ	50	1	
4 道案内	Could you ~? / How long ~?			ア			イ	ア, オ	60	1	
5 イベントのお知らせ			イ				ア	ウ	72	1	
6 体調不良	You look ~.			ア			ア	ア, エ	73	1	
7 観光案内		イ	イ					ウ	104-105	1	
8 音声ガイド		イ						ウ	117	1	
<b>World Tour</b>											
1 いろいろな単位		ア						ウ, オ	46-47	1	
2 世界を舞台に働く人		ア	ウ					ウ	90-91	1	
3 世界遺産めぐり		ア						ウ	124-125	1	
<b>Let's Read</b>											
1 Sukh's White Horse			ア, ウ					ウ	42-44	3	
2 Meet Hanyu Yuzuru			ア, ウ					ウ, オ	86-89	3	
3 Emojis — From Japan to the World			ア, ウ					ウ	120-123	4	
<b>Let's Read More</b>											
1 The Statue of Liberty			ア, ウ						143	(1)	
2 Aboriginal Art			ア, ウ						144-145	(2)	
<b>Active Grammar</b>											
1 動詞の過去形 / 過去進行形			ア						18	1	
2 動名詞 / 不定詞 (名詞的用法)			ア						28	1	
3 be going to / will			ア						40	1	
4 目的語									61	1	
5 助動詞			ア						74	1	
6 不定詞 (形容詞的用法・副詞的用法)			ア						84	1	
7 接続詞			ア						85	1	
8 比較表現			ア						106	1	
9 受け身の文			ア						116	1	
<b>Active Words</b>									137-142		
<b>Let's Talk!</b>				ア					とじ込み		
<b>Story Retelling</b>					イ				128-135		
									合計	108	